

2002（平成14）年度 東京大学 入試問題 第4問（文系） 解答例

- 一 解釈学的探究では、記憶は、その本人の視点からは自身の現在の生を成立させている当のものであり、確かな実在性をもつから。
- 二 系譜学は、過去を問う現在の自己自体を自明視しないので、記憶として残されていない自己解釈の成立を探索するということ。
- 三 既存の自己解釈を疑って過去を探索し、新たに納得のいく自己解釈の実在性が确实視され、再び自明の前提と化すということ。
- 四 解釈学化の回避には、現在との関係で過去を捉える観点を排し、過去の過去性を考える考古学的視点が必要であるということ。